

# 小栗上野介はどうして上野介を名乗ったのか

従5位下の位階を賜ると〇〇守を名乗るがこれは本人の自由。ただしルールがあり「陸奥守」は伊達家だけ、「薩摩守」は島津家だけ、「尾張守」は「終わり」に通じ不吉なので避ける、「武蔵守」は江戸城のある所なので恐れ多いので「遠慮」しなければならない、同姓の中では「違う名乗り」にしなければならない。老中と同じ名乗りは「遠慮」しなければならない、というのがある。

小栗は1862年渡米するがその時は豊後守だった。陸奥白河藩主阿部正外（まさと）は3000石の旗本であったが10万石の陸奥白河藩阿部家（豊後家）を継ぎ3か月後老中に就任し豊後守を名乗った。

（1864年）それを受けて小栗豊後守忠順は名乗りを変えなければならなくなった。

（1862年）勘定奉行になったのを機会に豊後守から上野介に変えている。（時期が違うが・・・）

小栗の領地は上野、下野、上総、下総、四カ国に分散していて、上野国群馬郡権田村との付き合いが深かったので、「上野」を名乗りにすることにしたのだが、この「上野」の場合、「上野守（こうずけのかみ）」を名乗ることはできない。

全国の「国」のうち「常陸」「上野」「上総」の3カ国だけは「親王任官」の国とされていて、「守」には「親王」のみがなれ、その際には「上野大守（こうずけのおおかみ）」となる。

上野の国の武家としては「守（かみ）」の下の「介（すけ）」になる。

小栗は「上野介」を名乗りとしたわけだが、「守」に対して一段劣る印象もあり、常陸介、上総介、上野介を名乗るものは元々少なかった。

「上野介」は印象も「縁起」も悪かったが小栗は気にせず縁のある「上野介」を選んだ。

縁起の悪い「上野介」

- ① 新田義貞上野介（我が手で我が首を掻き切る悲惨な最後）
- ② 本多上野介（宇都宮城釣り天井事件）
- ③ 堀田上野介（佐倉惣五郎怨霊で狂気）
- ④ 吉良上野介（卑劣な適役）
- ⑤ 小栗上野介（罪なくして斬られる）